

# ゆり、ばら、すみれ組の保育に関する 質問にお答えします。

平成23年4月28日

先日ご説明いたしました標記の件で、12件のご意見をいただきました。

その全てをご紹介しつつ（文章に若干手を加えておりますこと御了承ください）、ご質問内容について説明させていただきます。いずれにしても、杓子定規にはおこないません。あくまでも子ども一人ひとりの様子や成長に応じて、最善の関わりができるよう柔軟に進めてまいります。

## Q1

今のゆり組は、ばら組で経験しているのでは問題はないと思うが、ばらの時も思っていたが、ゆり組もすみれ組のような連絡帳があればいいと思う。このような体制になって特に担任の先生とも、もっと話ができて、子どもたちの様子がわかるし、記念にもなると思う。子ども自身に聞いたり伝えたりもしますが、どうでしょうか。

これまでも同様のご意見をいただいたことがあります。少し事情をご説明したいと思います。降園までの時間に多くのお子さんの連絡帳に記入するという事は、それをしている保育士はその間、子どもたちを見れないということです。ですから未満児でも連絡帳は、子ども達が昼寝をしている時間に手分けして書きます。もちろん昼寝中も、お子さんの様子や途中で起きたり起こすべきお子さんへの対応、昼寝の間に済ませておかなければならない仕事があり、連絡帳書きにかけられる時間は限られます。2階での生活になれば、昼寝をしていない子どもたちの遊びの様子に、広く目を向けなければなりません。

ご家庭からの連絡メモは必ず目を通しますし返事が必要なものには回答させていただきますが、一律にするのではなく、必要に応じて、また降園時に玄関でお話しさせていただく今の方法が、様々な兼ね合いを考えると現状では良いと考えています。その中で、コミュニケーションを密にすることを、常に心がけていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

## Q2

3歳以上の異年齢保育は良いことだと思います。自分の住んでいたところではずっと以前から異年齢保育（縦割り保育ですが）をしている園があり、上の子が下の子の面倒を見るようになっていたりいよと聞いていたので。こちらでも夕方などは以前からそうやって交流が行われていると聞いていたのも、入園して良かったと思っている理由の一つであり賛成です。

ご意見、ありがとうございます。子どもにとっては、どんなことでも成長を助ける経験になりうるものです。ただ子どもの力だけでは、そうなりにくい場合もあります。子どもの理解や能力を越えた事柄に出会った時などがそうで、大人が見守る中で適切な助言や関わり、援助をすることによってプラスの経験とすることが保障されるのです。最近では地方では子どもの数が減り、また外で自由に遊ぶ機会が減っていますが、もともと子どもは異年齢の中で過ごし成長してきました。またそれが人間の成長には欠かせないものだと言われている。

## Q3

今はまだ、分からないことが分からないため質問等はないが、後々出てくるかも知れません。

質問が出てきた時に、いつでも遠慮なくたずねてください。よろしくお願ひします。

Q4 今のところ無いが、今後何かありましたら相談に乗っていただければと思います。

## Q5

年齢差による多少のいじめ（意地悪）が心配です。

こどもの中の意地悪な気持ちや発言は、年齢に関係なく起こりますし、同年齢でも月齢の差があり、未満児の部屋でもありえることです。そして、それは人間の発達の中で相手と自分の違いを具体的に認識する自然なことなのです。大切なのは、その認識を成長の機会と捉え、良い方向に導いていくことです。こどもも人間ですから、いろいろな人との関係が発生します。こどもはその違うという感覚の持つ意味やその時のふさわしい態度を知らなかったり、自分の態度が相手に与える影響に気付かないでいるだけなのです。意地悪したり、されたりした時は、人間関係について教えるチャンスです。

例えばこんなことがあります。

ここのところ登園時元気がなくて、どうも様子の気になる子がいました。しばらく見守っていましたが、ある時その子と一緒に保育者が遊びながら話をしていると「お兄ちゃんたちが怖い」と言うのです。ちょうどそこへ勢いよく年長の男の子が駆け込んできました。「ほらまたや」と言うのです。保育者は「（なるほどこれね）」と分かりました。年上の男の子達は、別に意地悪をしているわけではありませんが、その行動力や勢いその子に怖いという印象を与えていました。これは異年齢に限らず、同年齢同士の中にも時々あることです。

そこで保育者は2階の全員が集まった時にそのことを話題にしました。「実はね、これこれこんなことがあって、お兄ちゃんたちのことを怖いなあって思う人がいるんです。他にもゆり組のお兄ちゃんが怖いなあって思う人いますか？」するとぼら組から5人ほどの子が黙って手をあげました。すみれ組からは2人だけ。なかには「ぜんぜんこわくないよ〜」という子も。それぞれ感じ方が違うのです。もちろん保育者は、聞かなくても日頃の様子を見てだいたい分かっているのですが…。そこで保育者は男の子たちが意地悪なのではないこと、どうしてそう見えるかというわけをこども達の反応を見ながら話してみました。そしてみんなに怖いと思う子の気持ちやそのわけも話しました。こうしたことだけでも、それを境に、怖いと言っていたこどもの様子はがらっと変わりました。また話すだけでなく、昼寝の時に年長の子に寝かせてもらったり、優しく起こしてもらったり、散歩の時に手をつないでもらったり…お兄ちゃんたちが実は、怖いのでなく優しいんだと分かるような経験を重ねられるようにしました。また、大きい子の少し乱暴な行動が見られたときには、「そんなことしてたら怖〜く見えるよ」とあえて小さい子の前で知らせるようにしました。様子の気になっていた子は、「おはよう！」と元気に登園。すぐに元の明るい表情で過ごすように戻っていったのです。

このように体力や体格の違い、少しきつい言葉遣いが、他の子の心に思わぬ気持ちを生じさせることがあるのです。けれど、そのようなことがあって大きい子は自分の言動の与えるものに気づくことができます。また小さい子も、その気持ちを保育者や大きい子が知ってくれていると分かることで、考え方が変わって、次の一歩へと進んでいくことができます。こうした経験を通して、小さい子も大きい子も共に、年齢差のある人間関係における言動のあり方や、年下の子、年上の子との付き合い方を学んでいくのです。それが生きていく時に必要な力になっていきます。こどもの人間関係におけるいじめの有無は、大人の持つ価値観に由来することの方が多いため、そこにこそ大人

の果すべき役割があると認識しています。

## Q6

毎日同じ年齢の同じ顔ぶれの子たちと一緒に活動するのではなく、いろいろな年齢のこどもたちと遊んだり触れ合ったりできるので、とても刺激されると思います。自分はこんなこともできるんだと、こども自身もいろいろな発見ができると思うので、良いと思います。小学校や中学校へ行った時、授業や休み時間など、時間の制限が出てくるが、何かしていたことを中断して、片付けをしなければいけない時もあると思う。それに対してはどのような保育をしているかと少し疑問に思います。

少しイメージされにくいかも知れませんが、当園で行なっている保育は、制限されることが全くないというわけではありません。重要視しているのは「遊び込める」ことや遊びを「継続できる」ということです。実際、一日の中に必ず片付けの時間があります。年齢毎に集まる時間があります。ご飯の時間があり、昼寝や帰りの集まりの時間があります。そのように、この年齢のこどもたちが自分で見通しの立てられる「時間割」は存在するのです。例えば大学に行けば小学校とは違い、一つの授業の時間が2時間あったりします。そのように保育園の時間割は、小学校の時間割とは長さや方式が異なると考えたら分かりやすいかも知れませんが、大きな約束の中で遊びを中断する時間は当然ありますし、あとで続きをするか片付けるかは時と場合によります。また片付けの時には4種類の積木や細かい玩具の部品などをこどもたちが整然と種類別に片付け、棚にしまっています。しっかりと遊び込んでいる子ほど、片付けにも自覚を持って取り組んでいるようです。こどもが片付けやすい環境であることも、こどもの意欲を引き立てます。お昼ご飯の時間も、多少の自由な時間的幅の中に制限があり、こどもたちは自分の遊びの状況とお腹のすき具合を考えながら自ら考え選択しています。言われたからするのではなく、片付けにしても遊びの中断にしても、その必要性を理解して行動することが、様々な生活のけじめに応用されていきますし、そうする力を伸ばしていくのです。

## Q7

年中・年長での総合保育はお互いの刺激や助け合いなど色々な面で良いと思うが、年少はちょっと無理があるように思う。こども自身の性格もあり、やはりいきなり大勢のお兄ちゃんのお姉ちゃんたちの中に入っていけない子がいるのではないのでしょうか。たとえばまだおむつが取れていないあるいは練習中で失敗などをするたびに大きいこの中には「あ～きたない、臭いからイヤだ」と嫌う子がいるのではないかと心配です。そんなことなどからいじめなどにつながるようなことはないか不安です。先生は6人なので心配なことは無いと思うが、けんかなどで傷を作ってきた時に理由が分かるようにお願いします。来年年少になるのですごく不安で心配です。

Q5のご質問にもお答えしましたが、そういうことがあったとしても、それを機会と捉えて適切な関わりをしていくことで、プラスの経験になります。けれども実際始めてみて驚いたことは、すみれのこどもたちの「たくましさ」でした。臆するどころかとても元気で意欲満々、大きいお兄ちゃんやお姉ちゃんの中に平気で入って行って、一緒に遊んでいるのです。小さい分、ある意味怖い物知らずのところがあったかも知れませんが、もちろん個性によっては気後れすることもあるかも知れませんが、それは最初の2週間ほどだと思います。考えてみてください。こども達にとってもっと大きな変化があったのは入園の時です。今まで家庭で小さな人間関係の中で過ごしていた子が、入園していきなり大きな環境や関係の中に入ります。最初は戸惑ったり不安になったりして泣いていたお子さんが、1～2週間もすればしっかり環境に対応し、そこに自分の居場所やあり方を見いだしたのです。大切なことは気後れしていたり不安に思っているお子さんに目をとめ適切な関わりと援助をしていくことで、その子の持っている力を引き出していくことです。

それから、こんなことがありました。

ある日のある時、ゆり組さんの子が保育者のところに急いでやってきて「○○ちゃん、おしっこもれたよ」と教えてくれました。保育者が見ると、すみれの子が階段のところで間に合わずにお漏らししています。そばにいたばら組の子がちょっと笑って「あ～もらしてる」と言いました。すぐに保育者が「どうして笑うの？」と聞いていますと、その横でゆり組の子が漏らした子に「大丈夫？」と気づかって声

をかけ励ましているのです。笑ってしまったばら組の子もその様子を見、保育者の言葉を聞き、理解したようでした。こどもはあらゆる経験を通して、それを糧にして成長していきます。大人はその経験がプラスに働くように、またおおごとにならないように、環境を含めて配慮していかなくてはなりません。実際、今年のみすみれ組の子を見ると、ゆり組さんやばら組さんにも自分の意見をしっかりと話しながら遊んでいる様子が見られます。本来、年少児には、そこまでの生きる態度が育つものなのだとすることに気付かされます。当然個人差や個性はありますから、そこをフォローするのが保育者の役割だと考えています。

どんな場合にも、保護者の方ときちんとお話しできるように取り組んでいきます。

## Q 8

広い部屋、ホール、アトリエ、ペランダなど、こどもたちの遊ぶ場所がたくさんありますが、先生たちの配置は決まっていますでしょうか。こども達だけでホールで遊ぶことになるのでしょうか。

遊びのコーナー毎に、だいたい担当を決めています。こども達が、「先生がどこにいるか探す」ということが無いように配置しています。ただこどもの人数や遊び方を見極め、こどもをちゃんと見渡せる位置を考え、その日その時々にも最適な保育者の位置を柔軟に考える工夫をしています。基本的にはこども達だけでずっと遊んでいるということはありません。ただ突発的な事態（誰かがトイレで呼んでいたなど）に対応するために保育者がそちらに移動することもあります。

普段から、保育者がいないと大きな危険が生じるようなことをしないように先を予想して進めます。つまり大人が一瞬たりとも目を離すことができないような遊びや遊具、環境はあってはならないということです。年齢に応じて自主的に、主体的に遊べるのが大切ですが、保育者の目が十分に届かないと判断されるような場合は、例えば「今はホールは使わないで過ごす」ということもあります。

## Q 9

すみれ、ばら、ゆりが一緒のお部屋で過ごすということで始めは驚いたが、すみれの時から改築等の時にゆり、ばらのこども達と接することが多かったことでこどもには抵抗が無いようであり、その時も生き生きしていたように思います。不安が無いわけではないが信頼して任せようと思っています。

またこどもたちの様子をいろいろな手だてでお知らせしますし、保育参加も今年は早めにスタートしたいと考えています。よろしく願います。

## Q10

2階の部屋だけで3クラスが製作をしない時間を過ごすとき、狭くないだろうか。新しいことが始まるのは何となく心配。各クラス共に慎重に注意深く保育をお願いしたい。いつも良い保育を考え、実行してもらい、ありがとうございます。

新しいことを始める時は私たちの間でも色々心配な点があります。それを予想して対策も立て、こども達にとってプラスとなるかの判断がもててからスタートせねばなりませんね。今回のことでも、4月の初めは皆がまだ落ちつかず、新しい環境やたくさんの玩具にはしゃいでいたり、色々と探索してあっちに行ったりこっちに行ったりしていたため、こどもたちがごちゃごちゃと混在している印象があったことは事実です。しかし3週目辺りから様子が変わってきました。それぞれに好きな遊びが見つかり、目的を持ってその遊びのコーナーに行くので、うろうろしている子が少なく、全体に落ちついていきます。同時に

保育室が全く狭く感じられなくなりました。他の保育園などを見ると、せまい部屋に何人も一緒に過ごしているのを見かけますが、ここでは「みんな恵まれているな」と感じるほどです。

## Q11

3歳以上の異年齢保育については、プリントの説明で理解でき、この時期にすみれ組となりラッキーなことだと思っています。一つ思ったことは、2階の部屋にゆり、ばらと、すみれ組も加わると人数的にせまいのではないかということ。1階のアトリエルーム、ホールもあるから大丈夫なのでしょうか。

直前のご質問でも記したことに加え、保育園の法律的な基準をお話すると、自分で立つて歩く段階になったこども達を保育するために必要と定められている面積は、1人当たり1.98平方メートルです。実際にその基準ぎりぎりで作られている園も多く存在します。当園の場合、2階の保育室部分だけで面積は173平方メートルあります。これはこども80人以上が同時に過ごせる（法的には）広さです。ホールは84平方メートル、アトリエは56平方メートルです。さらに2階の保育環境は様々な家具や仕切りによって区切られているので、こどもの視線からは部屋がたくさんあるように認識されます。

しかしこどもにとっての必要な広さは、このような基準では計り切れないものがありますので、遊んだり過ごしている様子を注意しながら進めていきます。

## Q12

大人数で過ごす時間が増えることで、こども一人ひとりに目を向けられるのか、またこども自身が、先生は自分を見ていると感じ取れる環境なのか心配です。一日の時間の過ごし方も知りたいので、よろしくお願いします。

このことも、私たち自身が今回の保育を始めるにあたって最も気をつけたいと考え、対策を練ってきたところです。そこで、保育者は毎日夕方に集まり、一人ひとり名前を挙げながらそれぞれの担当していたところでのその子の様子を報告し合い、こどもの今日の様子を時間をかけて話し合っています。そしてこどもが「自分のことをみてくれているな、大切に思ってくれているな」と感じられるような関わりをしていこうということも、話し合っています。

朝の準備、帰りの準備、お昼寝、食事、帰りの集まりなど、その時間によっては、いつも同じ保育者がそこにいるようにしています。それによってこどもたちが「この時間、この場面は、いつもこの先生がいるんだ」と分かり、そして「困った時はその先生に言えばいい」と安心できるようにしています。

ただし実際には保育者の心配をよそに、小さいすみれ組の子であっても初めからどの保育者にでも聞くことができますし、どんな時間や場面でも不安そうに立っている子はほとんどいません。これは予想外のたいへんうれしいことでした。こどもたちの持つ力に、本当にびっくりさせられています。

最後に、次のページで、一日の過ごし方を、おおまかにお知らせします。

## 一日の大きな流れ

登園	一日を過ごす支度を行ない、それぞれの遊びに向かいます。
11時	一旦みんなで片付けて年齢毎に集まり、話したり、お祈りしたり、歌をうたったり、読み聞かせをしたりします。 また原則として必ず外に出て遊ぶ時間を設けます。こどもの意思も尊重しつつ、健康に育つためにひつような生活態度を養いたいと取り組んでいます。
11時50分	すみれ組の子がまとまって、同じ保育者と食事を始めます。
12時すぎ	ゆり、ばらの子、おなかが空いて食べたい子から食べに遊びから帰ってきます。一人ひとりのこどもと話ながらご飯とおかずを盛りつけてあげます。（大盛り、中盛り、小盛りなど）
13時30分	すみれ・ばらは昼寝をします。早く目が覚めて、それ以上眠たくない子は早めに起きて遊ぶこともできます。ゆりの子も体調によって昼寝したい子は横になります。ゆりの子たちは基本的に外あそび。天候や体調によっては室内あそび。
15時	目覚めた子、片付けた子から順番におやつを食べます。
15時40分	2階で過ごすこどもたちで帰りの集まり（ホールにて）